

特101

26

婦人の手當



始



緒論

世には目出度夫婦となつても永き年月の間一人の子供なく折角貯めた財産も子孫に譲る事のできぬ人は澤山ある、それで夫婦間に病氣なる事も見出されぬ場合、に於て人生の行く末を案じて不幸を嘆かぬ人はなからう、未だ年の老ひぬ時は種々なる世上の事に心を配らざるのみにも思はぬのが常であるがだんく老いるには何人も未來の事に心配せぬ人はない、家名滅亡、騒動は歴代の史上に見ても現代の財産争ひを見ても一と

(一)

大正七年
交内

して子孫相續に關せざるはない、又譬へ子供があるにせよあまり幼稚な中に父母は亡して相續に堪へず祖父の意志を繼ぐ事ができずして家産を没するの例も少くない、かく云ふて見れば人間は必ず相當の年齢に至らば妻を迎ひ子供を得る事は財産の貯蓄よりも第一にせねばならぬ事である、然るに此れと反對に子供が澤山あつて養育にさい困り子供の産れるのを苦しんで居る人もある眞に世は様々で満ちれば缺くるの道理に洩れぬのでありましよう。

余は此の有様を見て同情に堪へず、何んとかして福音を

傳へやうと勤むる事多年であつたが遂に成功に近き理由を發見したので曩に妊娠日の前知と分娩日の起算なる一冊を公にしたのであります、是れによれば女子の妊娠は現在の學説を打破したものであるから何人も直に信じ得ぬであらう、専門の智識を有する産科醫などは易に近き説として反對したとの事である成程無理もないが、余は兎に角社會に公表する以上は確たる自信を有して居るは勿論、確に實驗を経たものである、唯先生から習つた事を其の儘應用したのではない自ら實地に研究した丈は諸君の面前に於て明かに申述べることができ、余は

唱ふる處の説は天文學者の如く理窟計り附合せしむるものでない否天文學も事實に近かきは確であるが地球の周圍も太陽の性質もかくなければならぬ丈の事で實際に行く事も見る事もできない以上は確とは云へない事であらう、此れに反して余の妊娠の前知説は如何なる人如何なる大家博士が反對しても實地に日々産出する産兒に就て調ぶる事ができる即ち事實の證明する以上は何年來の學說でも否定する事はでき得ぬではあるまいか、そこで余は如何なる反對も駁論も驚かずして事實と云ふ味方に依つて堂々と發表するに至つたのであります 早晚余の説

によりて醫學界に於ける在來の説は一變するであらうと信じて疑ひません、此の説の詳細は妊娠日の前知と分娩日の起算にあるから茲に詳しく述べないが次章に要旨を説明しやうと思ふ、然して世の子なき婦人は余の妊娠日前知説にて目的を達すに難くはあるまいと思ふが、屢々婦人病の質問に逢ふのを見れば子宮病と云ふ病氣に罹り居る婦人は甚だ多く又不妊の原因をなすもの十の八以上なるは事實であるから本編は婦人病を説明して不妊の原因を解せしめ併せて治療及び手當方法をも詳説して一般の婦人衛生を普及せん目的である。

目次

緒論	一
一 妊娠に季節あり	一
二 月経と妊娠 ●月経時の心得 ●月経時の勞 ●月経を入浴 ●月経の異狀	三
三 月経困難 其手當法	八
四 月経閉止 其手當法	一一
五 月経過多 其手當法	一三
六 子宮疾患	一四
七 子宮内膜炎 其手當法	一五
八 子宮外膜炎 其手當法	二〇

九	子宮實質炎 其手當法	二二
十	膾加答兒 其手當法	二三
十一	陰門炎と癢痒症 其手當法	二五
十二	卵巢炎	二八
十三	子宮筋腫 其手當法	二九
十四	子宮癌 附言	二九
十五	婦人病と不妊	三二
十六	淋毒 ●男子の淋毒 ●女子の淋毒	三四
十七	ヒステリー症	四〇
十八	女の一番大事な産前産後の手當	四二

十九	妊娠の徴候	四三
二十	妊娠中の衛生	四五
廿一	産後の心得	四八
廿二	産後の食物	五〇
廿三	乳の與へ方	五一
廿四	生兒の取扱方	五二

▲附録 ▼

婦人病を癒すに就て	五九
婦人病の治療に就て	六七
婦人病特效薬に就て	七一

(一) 妊娠に季節あり

無病の婦人は必ず妊娠すべき機能を持つて居りますが必ず又一定の季節があります。醫學上から云へば寒暖によりて妊娠の増減ある事は證明されてあるそれは寒暖は著しく身體の物質消耗に影響するからであります。然るに妊娠にもきまりきつた季節のある事は皆さん御承知ないでありません。これは緒言に於て申上げた通り著者は多年實地に研究した事で理論ではない實際から発見したのであります。其季節は女子の年齢によりて、月は變り

ますが春夏秋冬の四季一回三十日間妊娠季節に當るのであります尙一回三十日は月経後十五日間をもつて最好季節でありますから四回合して一ケ年の女子妊娠日は都合六十日となります。是を一年三百六十五日より差引けば三百五日は不妊日となります。故に世の婦人方にて無病なるものにて、六十日の間に妊娠せぬ場合は以外の日に妊娠せぬものであります。

不妊の人は自ら病氣であるか、否やを確め病氣の人は次に述ぶる所の婦人病の説明によつて氣がついたなら一日も早く手當を施し無病壯健とならば従つて子供を得べく

無病なる人は、余の著したる妊娠日の前知を参考とせば目的を達する事が出来ませう。若是の説明に附きて不明の場合は返信料封入著者迄照會せられなばお教へ申す事を辭しません。

(二) 月経と妊娠

月経は婦人科中重要なものであるから、なか／＼述べ盡す事はできないが大概の心得を述べます、月経とは女子生殖器の發育を示したもので之を春機發動期と云ひます然して月経は普通四週間毎に一回短かきは二三日長きは

一週間に亘りて起ります、それが四十五歳以上に至れば漸次に閉止します。

▲月経時の心得 月経時に於て最も注意すべき事は身體の安静であります例へば汽車、馬車、電車に長く乗る事、又は長時間の洗濯、裁縫、体操、機織等は過度の刺戟により害になるから深く注意して、身體の安静を保つやうにしなければなりません、過度の運動は其時でなく漸次に半年一年に及んで遂に病氣となります、月経時には滋養物を取り運動は餘りせぬやうにして風邪をひかぬやうに注意しなければなりません、兎角この期間は體が

弱つてゐるから病氣に罹りやすい、殊に精神に變調を來すから小説を讀んだり寄席、又芝居などに行き感情を起す事を止めねばなりません、尙清潔にする事を努めねばなりません、世間の人は月経時の不潔は仕方がないと云ふて止めてから清潔にするものが多い、之は大なる誤りで之が爲め病氣に罹る事がある、然らば清潔にするには如何と云ふに毎日五回位ぬるま湯にて外陰部を洗ふやうに努めねばなりません、但し腔中に湯の入らぬやうに清潔なる綿にて塞ぐが良い、又月経帯を着くる事を怠つてはならぬ何れにしても不潔な紙等用ふる事なく脱脂綿或は

ガーゼを時々取換て使用するは最も良い。

▲月経時の労働 月経時の労働は最も悪るい事は前にも述べたが世間一般の人は兎角安静を守らず働き勝の人が多く、之が爲め生殖器の病氣に罹つて居る人は甚だ多い、然し是の種の病は慢性であるから自分でも病氣と云ふ事を氣が付かぬ場合がある。

▲月経と入浴 月経時に入浴する事は清潔の爲めには良いが腔中に不潔物の入る恐れがあるから入浴しないやうに注意するが良い。

▲月経の異状 月経は四週間毎に一回宛あつて其量も

大抵定まつて居るが場合によつては非常に遅れたり又非常に分量が多過る時は病的であります、然し毎月一定の期日に遅れるのは差支ない又分量も一定に多くなるのも差支ない、只二三ヶ月止まつたり、又非常に多かつたり少かつたりする人は必ず病氣である、その證據には月経不潮の人に限り頭痛、眩暈、下腹痛、腰が冷えたりつれたり、何となく氣分が悪いものである是を其まゝ捨て、置のは誠に危険であつて末には取返し付かぬ病氣となる、婦人病の重なるものは月経時の不手當、淋疾、産後の不攝生なる事をみてもいかに月経は重大である事が判

る、故に何人も右の場合には速に専門の産科醫に治療を受くるが良い、必ず姑息の治療してはなりません。

(三) 月經困難

月經困難とは月經時に不快を感ずる事にして子宮部に痛を覺え腰や下腹の痛み尿意頻數となり何となく腰がつれる或は精神鬱ぎ食慾不進を起す此の症候は月經數日前又は月經と同時に起る事あり、此の原因は子宮腔に加答兒とか肥厚とかあつて子宮頸管の狭窄を起し或は腔管が不完全なる爲め經血を出すことを出来ぬ場合もある、又は

子宮内膜炎、子宮外膜炎、子宮實質炎、卵巢炎等の爲め困難を來すこともある、其他生殖器に障害ある爲めに來るものもあります、何れとても月經困難は病氣であるから捨て置ずして治療しなければなりません。

▲**手當法** 精神身體共に安静し、不消化物をさけ、滋養食物を少量に取り下腹や臀部を温かに包み痛み劇しき時は下腹部の温罨法を施しなさい、必ず不信用なる賣藥等を用ひないで専門醫の治療を受くる事を忘れてはならぬ僅かの診察料を咎み賣藥などの手療法で病を重くし一月で癒るものを一年もかゝり始めは入院の必要なき人も入

院しなければならぬようになる例澤山あります、僅かの金を咎んで遂には幾百圓の金を費し又は一生の不幸に泣く人もある、但し山間僻地に有りては専門醫處か普通醫すら居らず金を出しても診察の出来ぬ所もある此等の爲に余は最も苦心の上良薬を得てあるから御望みの方に限り分與する事に方法を設けてある詳しき本書の附録を見られたし。

(四) 月經閉止

月經閉止とは年老いて止んだのではなく月經のあるべき

年齢中に於て閉止するものを云ふのであります。是れには一時性と持久性の二種があります。一時性のものは甚だしく精神の感動、營養不良、又は妊娠及び乳の出るうちは閉止するものである、然し是は何らの苦痛を覺えないのであります、病的に於ては胃病、子宮病、萎黃病、貧血、結核、重病後は閉止する事があります、又非常なる驚きの爲め月經中に突然閉止する事もある、次に代償月經と云ふて身體の他の部分の創から出血して月經の代りとなる事があります、即ち鼻、胃、肺、痔疾からの出血であります、時久性は子宮及び卵巢の發育不全のもの

に見るのであります、以上の如き月経閉止は妊娠の外必ず治療しなければならぬ、等閑に置く時は全快に困難を
するようになります。

▲**手當法** 原因の軽いものは營養を良くし滋養品と、適宜の運動を怠らず良好の葡萄酒を少しくのみ新鮮の空気が日光浴を盛んにし、又鹽の温坐浴も効があります、月経閉止はさのみにも思はぬ人が多いが、極めて重大の場合があるから姑息な賣藥などの療治をせずして速かに専門醫に診て貰ふ事を進めます、但し醫師の不便な人は余の實驗せし良藥を御願ひ致します、詳細は附録にあり

(五) 月経過多

月経過多とは月経時に普通より出血の量が多く最も劇しい事を云ふのであります、然し普通と云つても人により異なる場合があるから何程が多いと云ふ事は定め難いけれども俄かに多くあつたり又止みそうになつて忽ち劇しく出血し身體に害を起し貧血する事を云ふのであります原因は精神感動、營養不良、脂肪過多、便秘、心臟病、肺病、胃病等にも起る又は流産の多い人、房事過度、手淫なども原因となります、但し子宮出血とは別な病であ

ります。

▲**手當法** 第一に原因療法を施し精神感動のなきように氣を鎮め氷罨法をなし身體を安静し甚だしき時は沃度ホルム「タンポ」を行ふがよろしい原因療法に就ては専門醫の診察を受くべくなれど不便なる土地にありては、余の元に申込めば信用の出来る良薬を頒つべし、詳しくは附録を見よ。

(六) 子宮疾患

子宮疾患を述ぶるにあつて子宮の状態を説明致します

子宮の大切なる事は云ふ迄もないが多くの婦人は手當の悪い爲め悲しむべき病氣を引き起します、子宮は手拳大の梨子状にして少しく平たく長さは三寸位、廣さ二寸厚さ一寸位にして子宮の中は空虚で狭く位置は骨盤部の中央にあつて膀胱と直腸との中間にあります、然して子宮の病氣は種々あるが重なるものは、左に説明致します。

(七) 子宮内膜炎

子宮内膜炎は慢性と急性とありますが子宮病中で一番多いのは本病であります、皆さんが子宮病と云ふのは大抵

内膜炎の事を云ふて居ります、原因は淋毒、手淫、産前
 産後又は月経前後の感冒、月経時の不攝生、早産、流産
 後の不手當、未熟な醫師が子宮の診察に機械使用を誤り
 し場合等より起ります、急性症に於ては寒氣、發熱を以
 て始まり風を引いたような氣がして何となく體が倦い、
 そうして骨盤内に重きを覺え陰部に痛を感じ股や腰が痛
 み又は股がつるようになつたり下腹が苦しく或は腹が張
 り大小便の通じが困難となり、食慾不進、精神憂鬱又時
 々うすき水の様な下りもの又は白い粘りあるもの、膿の
 ようなものを漏す、慢性内膜炎は月経時の血量増加、出

血、下腹部の痛み、腰の冷へ、足のつり、白帯は常に下
 だり急性に比べては割合に苦痛が少ないのは慢性である
 原因は急性の場合によく療治をしなかつたり産後の月経
 時、流産後の不攝生、房事過度等より起る、是の病氣に
 罹れば多くの婦人は神經過敏となり物事に感じ安く又怒
 り安く、少しの事でも氣にかけて常にくよくよする一體
 女の疝癢は子宮病のものに多い是が長く續くと身體が衰
 弱して貧血し世間によく見る顔の青白い勇氣のない人ど
 なる慢性のものは數年又は數十年の間悪くなつたり良い
 様に思ふたりして一日として樂しき日とてなく暮らすの

である、餘病さいなければ一生持病の生活を送る事は少
 なくないが病勢が進めば死を免れぬ様になる。
 此の病症の人は世間に澤山ある、そうして必ず子供がで
 きぬとも限らぬから輕きは本人自身さへ知らぬ人もある
 が、争はれぬ證據は時々^{こしけ}のこしけや下りものです、如何
 なる人でも健康の體には下りもの等は絶對にありません
 然るに世間多くの婦人は少し位のおりものは女としてあ
 るもの、様に思ふて漸々病勢を重くするのです大に注意
 を要するのであります然して本症の妊娠せぬ理由は白帶
 下の爲男子の精蟲を殺し又は精蟲と卵子と接合しても炎

の爲に附着發育の場所がない爲であります。

▲手當法 急性にて發熱のある場合は精神、身體共に安

静を保つ、消化のよき淡泊なる食物を與へ、溫座浴、腹部
 濕布をなすがよい甚敷痛ある時は温罨法が最もよい此の
 方法は熱湯に蒟蒻を入れて手拭に包み又は手拭か厚きタ
 オルに熱湯を注ぎ窄りたる後痛む處にあてるのでありま
 す慢性にして急劇に痛む事なき場合は常に腹部を温めあ
 まり身體、精神を勞せず食物は酒、酢、辛き物等を除き
 なる丈滋養に富めるを^{えら}選むをよしとす、清潔を保つ爲に
 鹽湯の座浴入浴もよろしい當腔中に痛を覺ゆる人には腔

座薬を用ゆるがよくあります最後に注意すべきは醫藥と手當よろしければ全快も早いですが少し癒りかけた時に交接をしてはいけない唯一回でも悪い方にはなり安、此の療法に就て醫師不便の人は余に申込まれよ詳細附録にあり。

(八) 子宮外膜炎

此の症は内膜炎又は實質炎より病勢波及せしものと過房又は淋毒より來るものとあります、急性や腐敗性は寒氣熱、嘔吐、下腹痛等で其他は内膜炎と同じである、慢性

は便通、交接、月經時に腹痛を増進致します腹全部痛む事は腹膜炎になる憂がありますから速に治療しなければなりません。

▲**手當法** 外膜炎も手當は内膜炎と略同じで宜しいが痛の甚しい時は氷嚢を貼し又座薬を用ゆるがよい、然し本症は熱の高き場合は必ず腹膜に波及する恐れがあり、取り返しの付かぬ生命問題となるから手治療をなさず醫師不便の土地でも座薬等の手當をなしつゝ、必ず相當な醫師を迎へて治療を受くる事を進めます。

(九) 子宮實質炎

本症は内膜炎と同じ様な原因から来りまして子宮が腫れて痛む病氣である病態は内膜炎なぞと變らぬ處もあるが特徴は下腹の真中と腰の真中邊に痛みがあります病勢は重くなれば咳をしても踏臺から下りても響いて痛む様になる勿論寒氣もし熱のある事もあり月経前後に痛んだり中途で月経が止まりもする、白帶下は多くなり又は血を混じる事もある、本症も不妊の原因なるは云ふ迄もない數年の間不治に苦しんで不幸に日を送るは實に嘆かしい

事でありませす。

▲**手當法** 身體の安靜を保つ鹽湯の座浴を行ひ、痛む場

合は氷嚢か冷罨法を行ふ食物は刺劇性のものを避け淡泊なる滋養に富むものを食する事に心掛け氣を永く持つて治癒を待たねばならぬ兎角早く癒る事と思ふて氣を揉まぬ様にするがよろしい。急性に來りし場合は安靜にし醫師を迎ふる事を忘れてはなりません。

(十) 腔加兒答

原因は感冒に不潔、手淫、房事過度等より來り腔粘膜に

炎症を起し充血して腔内が赤く腫れて痛を覚え、白色粘液若くは膿の様なもの流れ出でるを常とす、それには悪しき臭を發し腰の痛む事もあります、始めのうちは痛む爲めに交按不能となるが、十五日間以上になれば痛みは薄くなりませんが、それは慢性なる徴して矢張白帶下は以然として止みません本病は年若き新婚の婦人にして清潔の手當を知らない爲めに多く發するのであります、初婚の婦人は大抵一度は罹るといつてもよい又淋毒より來るもあります、然して治療をせずには日を経れば身體倦怠食慾不進、頭痛などを起します。

▲手當法 第一に清潔を重んじて、日に三回位ぬるま湯にて外部を洗い、其れと同時に腔洗滌をなすは最もよい尙腔座薬を用ゆる時は大抵全治に至ります、但し淋毒より來りたる時は此の手當をもなすべく詳しくは淋疾の部を見て併せて療法なさるがよい、醫師不便の人は良薬の備へある故余に申込みなさい詳しくは附録を見よ。

(十一) 陰門炎と瘙痒症

陰門炎は不潔、手淫、房事過度、淋毒、糖尿の刺戟等より起り陰唇に發疹を起し粘膜は腫れ又は粘る汗の如きも

の出る事あり、是病は多少の痛を覚え、手當を怠る時には遂に腫れ膿を持つ事あり、瘡痒症に於ては貧血、妊娠より起る事もあるが、重なるものは手淫より起ります、それで瘡痒を覚え知らず、かく様になります、かけば頗る瘡痒を忘るゝからであります、本病は妙齡の婦人には最も多く場所をも不厭かゝねば承知のできぬやうになり、甚敷は不眠症を起し營養の不良を招く事になり従つて病勢を増せば全治困難になりますから早く治療を試みなさい。

△**手當法**

陰門炎には清潔を旨とし二百倍のレゾール水

又は五十倍の石炭酸にて洗ふか、又は脱脂綿にて濕すがよい、瘡痒症には原因療法を施す事は勿論であるが下りものゝある人は座浴を以て清潔にし五十倍の石炭酸にて番法なさるもよい、又は腔座薬を使用しつゝボサン水にて洗滌するのも手當の一つである。但し何れにせよ不潔なものを腔中に入れる事は最も悪いから總て洗滌其他如何なる場合でも注意する事を忘れてはなりません此の治療に就ては容易であるから余の元に申込めば良薬を願ちます詳細附録にあり。

(十二) 卵巣炎

急性のものは感冒、淋毒、産褥熱等より來り慢性のものは精神過勞、房事過度、子宮内膜炎等を原因す、卵巣炎の症候は急性なるものは原因すべき本病の既に危険なるものでありますから特に症状を示す事が出来ませんけれども慢性のものは立働の時に卵巣部の痛み又は交接、月經時に痛を發します手指にて厭しても痛むのであります、手當法は専門醫の治療より外に素人にてはありませぬ。

(十三) 子宮筋腫

原因は種々ありてその症状は出血と疼痛を以つて本病の特徴と致します。

▲**手當法** 交接を禁じ劇動を避け一日も早く専門醫の手術を受けるがよい急に危険がないけれども早い丈豫後よろしくあります。

(十四) 子宮癌

是の病は四十歳以上の婦人に發し出血及び白帶下なども

に悪臭を放ち子宮に痛みを覺ゆ、但し初期の内は痛みも少く又下りものも少く時に少しぐらへ血を洩すそれで月經時などは氣のつかぬ事があります、是の病は早く診断して手術を行ふより外はありません、もし手遅れになれば取返のつかぬ生命問題となります、故に四十歳以上の人で時々白帶下や出血があつたら必ず専門醫に見てもらい癌の有無を定めたが安心であります、萬一是の病を捨てておく時は醫者も薬も其甲斐なく、あの世の人とならなければなりません、手當法は手術の外なきも労働や房事を禁じ身體を安靜にし滋養の食物をとり膾座薬を行なふ

三〇

事です。

附言 余は子宮癌について再び注意を致しておきます、總て癌腫は危険な病であるが殊に子宮癌は診察又は手術を嫌い、それが爲めに助かる命を捨てる人があります、例を揚げて云へば余の友人の母が子宮癌であつたが婦人の常として家人に秘密にして賣薬などをのみ温泉などを歩き醫師の手術を嫌つて居つたが愈々苦痛に堪へずして家内の人に傳へた、驚いて病院に入院せしめたが其の時は既に遅い、なんとも治療の方法がないと云はれた兄弟皆集まりて相談したが何んとも致し方がなく見ながら死

を待つ有様は實に忍び難い、今では本人も頗る衛生思想のなかつた事を悔いて居るとの話聞いた故に此の本の讀者でかゝる徴候のある人は一時の耻位はしのんで速に治療を受くる事を切に御進め致します。

(十五) 婦人病と不妊

不妊の原因は婦人病即ち女子生殖器病に多くあります、爲めに既に前章に於て大略申述べました故にもし病氣であると思はれる方は速かに相當の治療を施しまして全快せらるゝやうにお進め致します、さらば本問題の子供を

得る事が必ず出来るであらうと思ひます、尙こゝに注意を致しておく事は婦人病の治療方法であつて専門醫の治療を受くる事は最もよい事であるが、全く土地不便で診察を受くる事の出来ない場合もあります、是の場合は止むを得ず賣藥等の自宅療法をしなければなりません、が、婦人病にも自宅療法でよいものもあるが、必ず専門醫の治療を要する場合もあるから其邊をよく誤らずに注意をするがよい、余は各章に於て其事を述べておいた通りであります、然して不妊の原因は是の以外に男女の淋毒よりも多くの害を受けておるから、是れから男女の淋

毒に付いて記述致します。

(十六) 淋毒

男子の淋毒、男子の淋毒も子供の出来ない原因となるから、少しく述べる事とする、是の病は「ゴノコツケン」と云ふ淋毒菌が尿道に附着して膿を洩す、尿意は日に何回となく起り放尿の際には劇しき痛みを感じ、こらへきれない位であるから誰も淋病であると気が付くが若し初め感染した計りであまり苦しくなく痒い位に感じる時又は慢性になつて膿漏の目にふれぬ時は硝子のコップに尿

を取り光線に透かして見る時は淋毒のある場合は必ず濁つて其の中に糸の如き細きものが浮いて見ゆる此の場合は膿漏がなくも婦人と接する事を避けねばならぬ苦し怠る時は必ず婦人に感染せしむるのである、發病の原因は男子なれば大抵女子より傳染するか不潔の交接によると云ふも差支ない、療法は交接を禁じ、刺戟の食物を避け尿道の洗滌を行ない内服薬の必要もある、但し手療法は洗滌の場合最も注意すべき事はスポットの使用に於て膿を尿道の奥膀胱迄も追い入る、恐があるから可成醫師に受くるがよい、然し止むを得ぬ場合は左の方法を用ゆる

のである。

洗滌の時は前に放尿して後に行ふ事又必ず足のかゝとを以て肛門の尿道に接する會陰部を壓いて膿や洗滌水の奥に入らぬ様になす事である。

以上は急性の場合であるが、此場合に、餘程注意して治療しなければ慢性になります、慢性になれば痛みも少く又膿漏も減ずるから、捨て、おく人もある、是れは大なる誤りである、慢性は中々癒りにくく、治療に困難であります、尙子供の出來ない原因となりますから、必ず根治法をやらねばなりません。

女子の淋毒、女子は尿道淋疾もあれば膺淋疾もある、又子宮に及べば淋毒性内膜炎となる尙女子は、子宮頸、子宮外膜、喇叭管、卵巢、腹膜までも病毒の進入する場合がある、尙膿が陰から肛門へ流れて直腸淋疾に侵さるゝ事もある、然して普通は尿道に感染して、矢張男と同じく小便の數を増し痛みを覺ゆるが男子と比較せば尿道の廣き爲め痛みは甚だ軽度であるが膿を洩らす事は同じである、即ち消渴と云ふのは此の病の事であり、次は子宮の淋疾内膜炎を起すのである、内膜炎の部に於て述べた通り腰や下腹が痛み時に血が下り、又は白帶下が甚

だしいのである、是の場合に於て病毒を退治しないと、奥深く進んで、喇叭管、卵巢等まで及ぼす事があるから早く根治をはからなければならぬ、さもない時は慢性となつて、自然に治療も、しにくくなり、又不妊症の大原因ともなる、兎角男女共淋疾は早く根治しないと、お互に苦るしむ事になる、男が癒りても女より傳染し、女が癒つても男へ傳染するといふ有様で、長くの間子供も出来なく、病にも苦しまねばなりません。

治療の方法は女丈に面倒である、洗ふ事などは男の如く自分では出来ない故に専門の醫者に治療を受くるがよい

最も、子宮ならば自分で洗ふ事も出来る、終に注意しておく事は身體の安靜、刺戟の食物、酒類、辛き物等をさけ、淡泊なる食物を取り最も、謹むべきは交接である、局部は最も清潔にし必らず觸れたる手は消毒し必らず膿や下りもの、目に入らぬやうに注意する事であり、萬一膿汁が目に入る時は失眠の恐れがあります、それから尿道淋のみの時は腔座薬を用ひて腔や子宮に淋毒の入らないやうに注意すべく、もし子宮淋毒の場合は殺菌治療薬として用ゆべく腔座薬は男子の淋毒を防にも最も効力があります。

(十七) ヒステリー症

是の病症は女子の特有とも云ふべく、我國の婦人には最も多くあります、然るに病氣であること云ふ事は本人自身も又家人も氣の付かぬ病氣であります、それは特に痛むとか、苦しいとかの事なき爲めであります、原因は神経性の遺傳に最も多く、次は精神の感動、恐、悲、哀、心配、怒、驚又は夫の道樂、自信自營力を失ひたる場合の大なる悲觀、生殖器病より來る反射、家庭の不和等より種々煩悶の結果逆上の本性を來たす事多くあります、

症狀としては種々あれども、陰鬱にして悲哀の心強く、恐怖、涕泣の果は死ぬより外ないなど、活劇を演ずるのであります、これは皆、喜怒哀樂の官能に異常を來し憎らしい嫉ましいなどの感情強く何一つとして手に付く事はないのであります、世間によくある女の家庭不和の自殺などは全くヒステリー症を來すからであります、是の病は別にどこが悪いと云ふ事はないが時々頭が痛んだり眩暈がしたり耳が鳴つたり、肩が凝り手足が冷え、身體倦く、一般に不眠症を起して終夜苦悶し、たんに病勢を進むるのであります、尙食慾不進にして仕事があきや

すくになり何をすることも、いやになり、寝轉んで居たがるやうになります、それで氣が短かく嫉妬深くなる、療法は原因を除き身體の活潑をはかり冷水浴、海水浴をなし郊外に出て日光に浴し終日外氣に觸れる事が最もよろしい、何事も心にためず滋養の食物を取り薬用療法としては余の元に申し込まれよ、詳しくは附録にあり。

(十八) 女の一番大事な産前産後の手当

子宮疾患の重なるものは既に述べましたから不妊の原因たる疾病及び其手当法も、お判りの事でありますから茲

に婦人として一番大事な産前産後の手当法を記載致します。

(十九) 妊娠の徴候

妊娠しても手当が悪ければ流産とか或は早産とか又は、無事に産んでも、後から病氣に罹ると云ふやうな不幸があるから妊娠の有無を早く知つて手当をするのが肝要であります、第一妊娠の徴候としては月經の閉止である、然し月經が病氣の爲めにも時々止まる事があるから確とは云へない、第二は乳房に色の付く事である、これも其人

の特性によつて始めから着色して居る人もあるから定め
難い事もある、第三は身體の異常である、嘔吐、悪心、
尿意頻數、疲勞等であるが、これも病の爲めにもあるか
ら、確とは云へない、第四、腹部の膨大であります、
これは五ヶ月以上でなければ判全しない、第五胎兒の運
動、心臓音であるがこれは、六ヶ月後でなければ産婆醫
師にも判らぬのである、第七専門醫の内診である、子宮
を觸診して見れば判ります、が醫者でなければならぬの
と二ヶ月後にならねば矢張不判明であるから確かめるに
不便がある、第八、そんならどうすれば確な事がわかる

かど云ふに余の著した妊娠日の前知と分娩日の起算によ
れば何人にも確かに判明致します。

(二十) 妊娠中の衛生

妊娠中は婦人の最も衛生に注意すべき事であり、少
しの不養生も胎兒の發育に大なる影響を及ぼす憂がある
から左の如く注意する必要があります。
食物は不消化物、刺戟物等を除き滋養のあるものを取る
事は云ふまでもなく常に精神上の注意をしなければなら
ぬ、甚だしき感動や、小説、芝居の如き悲哀、憤怒を避

け精神を安らかにし、静な仕事位は差支がない、適宜の運動と新鮮なる空氣に浴し感冒にかゝらぬやうに心掛くるがよい、最も害あるは勞働殊に重き物を持つ事、高い所に登る事、汽車汽船の旅行、五ヶ月後の交接、六ヶ月後の海水浴、腹帯の堅くめる事（是は適宜にしめべく分娩に苦しいなぞと云ふてむやみに堅くする人あり）又は便通がないと云ふて信用のない下劑藥等を用ふる事であります、尙妊娠中は小便をする氣が頻りに起るもので分娩期になれば漸次劇しくなりますが、是は胎兒が膀胱を壓迫するので別に差支がないのであります、其の他に注

意すべき事は身體の清潔殊に陰部の清潔を怠つてはなりません、少しにても血の出るやうな場合は流産の恐れがありますから専門醫の手當を受くべく足の浮腫むやうな事あるも靜脈管の壓迫によりますから軽いものは治療する迄もありません、但し是の場合は働く事をやめて足を高くして休めば宜しい、又妊娠中に多くの人は唾液を瀕に催すものであるがこの場合は鹽酸加里水（百倍）の含嗽がよろしくあります、妊娠二百五十日位に至らば一度は産婆に胎兒の位置等を見てもらうが一番安全であります。

(廿一) 産後の心得

妊婦の出産期に近かすく時は、産室を選定すべきである最も空気の流通よろしき静かな室にて冬ならば暖き、夏なれば涼しい所を選び清潔に掃除をして準備をするがよい、蒲團はなるべく軟きものを選び必ず不潔を避けねばならぬ、世間にはよく産婦の分泌物に用ゆるに、不潔なる襦袢を用ゆるものもあります、これは大なる誤りである恐らくこんな危険はありません、不潔なる襦袢には微菌が附着してこれが浸入し産褥熱「スソカゼ」其他の疾病

に罹る事は、よく見受るところであります、兎角、出産は女の大役であつて、最も大事な場合であるから、少しい位の費用は惜まず充分清潔なる消毒したる脱脂綿を使用する事を忘れてはなりません、それから在來の習慣として座つて居る所もあるが、成る可く横になつておるが宜しい、然して産後三日間位は、精神を働かせないやうにする爲めに交際を絶ち、何事も話さない方がよい、安静の日数は七週間にして、二週間目位から少しづゝ起きて座る位に致し四週間目位から静かに歩いてても差支はありません。

(廿二) 産後の食物

食物は直接に身體の快復を圖るものであるから滋養なる消化のよい牛乳、卵、粥、ソップ等を用ひ日數の經ち次第、鳥肉、魚肉等を用え、漸々に平常の食物に轉づるがよい、最も注意すべきは、アルコール類、古き野菜類であります、余の實驗せし最も害あるものは飲食物に灰の混じる場合である、まさかこんなものを混じる憂もないが灰を以て鍋を磨く時萬一にも注意の爲記載して置きます。

(廿三) 乳の與へ方

小兒に乳をやるには初めは呑みたがる時にやるか二日三日とならば三時間毎に飲ませると具合よく消化します最も夜間は六時間位休むのは普通で又衛生にもよくあります、それから生れたばかりの兒には七時間位後に初めて呑ませるのである、即ち生兒が一ねむりをして目のさめた頃であります、又注意すべき事は母の身體に病氣のある時は決して乳を與へない様に注意して置きます。

(廿四) 生兒の取扱方

これから産兒の衛生及び取扱方を御話致します、兎角小兒は言葉を聞く事ができませんから初産婦の方にして經驗のない方は殊に困る事は澤山あります、泣くのを見ても、病氣を乳を慾がるのと間違ひる場合なども見受けま
 す、小兒は大人と違い總ての機關が弱い處から大人なら何んでもない事にも種々なる故障を起します、食物でも少しの過分を與ふれば吐き出し又は胃擴張などを來す事もある、皮膚の如きも甚だ薄いから少しの寒さにも風を

引き、衣服の硬き爲にはすり創をでかすなぞの事もある最も危険なのは感冒から鼻加答兒を起す事で呼吸氣管や鼻の障害物を大人の如く排出する事ができぬ爲であります、乳の不足の爲に牛乳で育つる場合は乳器の上等を選ぶ必要がある、今では分量の判然と知れて幾ら呑んだか直に判る瓶もあるから便利であるが牛乳の性質と消毒方法を心得、必ず腐敗せしものを與へない事に注意すべきであります、それから食物であるが誰も初めから不消化なものを與ふる人もあるまいが、食するからと思ふて澤山やるのは是又胃擴張になる事があります、小兒は口に

任せて呑み込むので分量や消化の程度なぞの分る譯はない、普通の家庭では母は一度適度の食物を與へたのに祖母がそれを知らないで又與ふる場合などもありて、不消化のあまり下痢を催し身體が衰弱する、風を引く餘病を發して僅かな事から大事な問題を起す事が澤山ある、衛生を知る母は子供が可愛から御菓子をやらない、何にも知らない母は可愛ばかりに悦ばせるのは樂みに無頓着に御菓子をやる、つまり育兒法は此の邊に注意する必要がある、強ちこんな事で生兒の身體を損ふとは限らぬが小事より大事の譬への通りであるから御話して置きます、

それから衣服であります、小兒は皮膚の抵抗力が弱いから大人より少し澤山着せて置く事は肝要で、又肌着のやわらかきものを選ぶ事であるが小兒の衣服は汚れが早く大小便毎に不潔になるから時々注意して取換ねばなりません、新しきものを換へても直ぐに汚すからなど云ふてじめくくと濕つたものを其のまゝ使用して居る人もあるが幸に病氣もないであらうけれども衛生上から見れば長く病氣にならぬと思はるゝ事を澤山見受くるのである僅かの事であるから是非注意すべきであります、小兒と雖も矢張皮膚を清潔にしなければ感冒に罹る事は勿論で

ある、次に小兒は良く眠るものである、眠る子は育つと云ふて眠るのは差支ない一晝夜の半分以上眠る程よいのである、身體に具合悪ければ必ず眠る事なくシリと泣くのは常であるから眠るのは最も健康な譯でありませ、母親自身なれば幾ら育兒の心得ないと云ふても見たり聞いたり又愛情からでも充分注意の行き届くものであるが年若き守娘などは長く云ひ聞かされて置く事も頓着なく寒い時に薄き着物のまゝ小便をさしたりする爲風邪に罹らす事は確に多い、是は大いに注意すべき事である尙母親の注意する事は小兒を眠らせる場合に乳を與へな

がら添へ寝をする事である是が爲に乳房で小兒の鼻口を塞いで窒息の爲に死に至らしむる事がある、是は世間に澤山の例のある事でありますから充分の注意をなさねばなりません、又母親の注意は飲食物である母の飲食物によりて間接に乳兒の營養に關係してくる、つまり滋養に富むものを適度に食して攝生的生活をなせば乳兒の發育もよいのである、アルコール性や刺戟の甚敷ものを食したり不消化のもの計り食する時は従つて乳に影響を來して營養を悪くするのは當然であります、要するに母の食物により小兒は發育するものであると思へば誰も酒などを

は呑む事をせぬのでありましやう。

▲附録▼

●婦人病を癒すに就て

人々は世の中に生れた以上は、何人も幸福を望まぬ方は
ありませんまい、幸福、幸福とは何物でありましやう、又
幸福は何の爲めに望むのでありましやう、こう云ふたな
らば幸福を望むのは幸福を得たいからであり、幸福とは
金もあり名譽もある生活と答へるであらう、成程福は金
銀財寶で幸は名譽であります、然るに絶對の幸福は金や
名譽ではありませんせん金や名譽は幸福の一部分に過ぎない

のであります、假に金や名譽は幸福であるとしたならば
 金もなく名譽もなき人は不幸な人と云はねばならぬが決
 してそうではありません、金もなく名譽もなき人こそ反
 て幸福な樂しき家庭に日を送つて居る人は澤山あるでは
 ありませんか故に幸福とは金でもなく名譽でもない、又
 反對語の不幸とは金のない事でもなく名譽のない事でも
 ありません、然らば幸福とは何物でありましやう又不幸
 とは何を云ふのでありましやう、余は茲に於て幸福の定
 義を下すに幸福は健康なり、不幸は不健康なり、と云ふ
 のであります、「春の花開く頃には自然に人の氣も浮き立

つて百草花群の芳あらしひを見れば貧の病は愛らしき我
 子の笑顔に癒されて、金もない名譽もないさみしさは、
 枯嵐の寒さのその如くまたくる春の若草を思ひしのば
 れては樂しき種ところなりて辛らき思ひなぞは夢だにも
 なきは人の常なり』にて金も名譽もなき人にて頼とす
 べき愛する子と妻が健康であつたならば名譽財産は共に
 働いて得る事はできましやう、既に名譽も財産もあり溢
 れて、何んぞせば減さない事ができると保護にのみ心を
 惱まして居る人々に較べては、ないそれ丈得やうと思ふ
 心の如何に樂しみではありますまいか、余は云ふ貧は富

の裏である高き飛行機に乗つて居る人は落ちる心配はあ
 るが地から眺めて居る人は落ちる心配なき丈に見るのが
 樂しみである、富は如何程あつても名譽はあつても健康
 の勝れぬ人程不幸な事はない、歐洲大亂前に獨逸ハンブ
 ルクの一富豪は妻子に早く別れて獨り淋しく日暮して居
 たが感冒の心地から病を得て長く病床の人となつた時看
 護の人に向つて私は妻子に別れる時はもし此の病氣を治
 す醫師があらば全財産の半分一千萬圓を咎まないと思ふ
 だが今正に自己が死の近づくに至つては全部の財産も
 又我生命よりも愛子の生存を望む巨萬の富も大なる成功

も愛する妻子の爲であると話されたこの事を見た事があ
 ります、これを見ても人生の第一番の不幸は病氣と相續
 すべき子供のない事ではありませんか、何がなくとも愛
 子、愛妻共一家健康で暮らしたなれば此の上の樂しき日
 暮しはありますまい、又一家夫婦の中に子供のない程淋
 しい事はありません、これも前云ふた通り不幸の一であ
 ります、子供なき家庭は必ず和合は致しません夫婦の愛
 情は自然に薄すくなります、よく子が釘絆と云ひますが
 眞にその通りであります、現在の離婚統計を見ても子な
 き人の離婚は九分九厘であります、夫の道樂や酒色に迷

ふ事は妻の病氣（子宮諸症）と子供のない場合に最も多い、これは家に居つても愛する子もなく妻は常に病氣で勇んで夫を慰むる事のできない淋しい爲であるつまり家庭は不愉快な處から遂に一度二度と迷い込むのであります、一面から見れば無理のない事ではありませんか、これ迄申上げたならば人生の幸福は金あるでもなく名譽でもなく健康な人々の揃ふた家庭に子供のあるのであります事は御判りで御座いますやう、又不幸な人は金のないでもなく名譽のない事でもなく病人のある子供のない家庭である事も御判りでありましたやう、最も婦人病の妻や

淋毒のある夫の間には子供のないのは當然であります兎に角病程恐しいものはありません病の爲には子供もなく悲しい月日も送り又死と云ふ不幸も見ねばなりません眞に病氣は人生の敵であります、然らば如何なる方法をなさば此の難を免れる事ができるかと云ふに此の本の中に申上げた通り無病な人は衛生を守る事に努め又既に病に罹りました人は本の各症に照らして見て其れ相當の治療をなさりさいすれば、再び健康となり前に増して幸福な家庭を作る事ができまじやう、然し治療の方法は此の本を読んで見て私も何々の病らしいと氣がつかれたら早く

専門醫師の診察を受けて治療なさる事を御進め申します、世間によくある色々の賣薬や新聞や雑誌などにて「私は多年の子宮病の處新發明の薬で全快したとか、何十年前からの家傳であるから効能疑ないとか、此の薬を飲んで子供ができたとか」毎日競争で廣告して居るが信用の疑はしいもの計りである、其の證據は此の賣薬屋さん方は私は商賣でない病者救済の爲であるなどと云ふ人も仲間同志で私の薬はきくが他の薬はきかぬなどと中傷して居ります、救済の爲めなら競争する必要はないでありますやう、多くの婦人病者中では早く手當をすれば治るのに

自分の病名(婦人病名種々あり)も知らずに唯廣告なぞに迷ふて醫者でなければならぬものを賣薬の効も害もなきものを何週間も服用して漸々病勢を進める人は澤山ありますから此の邊の事を明かに皆さんに御知らせ致したいのであります。

● 婦人病の治療に就て

婦人病とは婦人にのみある子宮諸症の事であり、然して其の治療方法に就ては前各章にては素人の手當法及び其の容體を説きました。皆さんは若し自ら病である事

に心付かれた時は如何にして癒さんと必ず御心配になる
事でありますから余は次に最も安全なる治療法を申し上げ
て置きます、尙婦人病は慢性のものには自分で病である
事に心付かず愈々悪くなつて始めて驚く様な事は澤山に
ありますから再び茲に其の症状を記載して参考に致しま
す。

- 一、月やくの不順、早くあつたり、又遅くあつたり、一
月も二月もなく又あつたり。
- 二、月やくの時下腹が痛む、腰が重苦しい。
- 三、時々白いものや、汗の如きものが下る。

四、腰が冷える、つれる又痛む。

五、下腹が痛んだり止んだり。又具合悪い。

六、のぼせて顔がほてる、気がくさくする。

七、仕事を手につかぬ、仕事にあき安い。

八、常に気がふさぐ、悲、怒の心が強くなる。

此れ等は皆婦人病血の道より来る直接、又は間接の症状
で必ず病氣でありますから前章に申上げた各症に照して
御覽なされば病名も判ります、治療に就ては悪くならな
い内に癒す様心掛けねばなりません、現在産科の進歩は
如何なる婦人病でも全治するのであります、或る廣告に

私は至る處の病院にも醫者にもあらゆる薬も試みたが遂に癒らなかつたが自分の研究薬で永年の子宮病は治したから救済の爲に分薬する云々と見た事があるが、皆さんは決してこんな廣告を信じてはなりませんこれは自分の薬を賣る爲め的手段である、病院で癒らぬ譯はない、これは醫師の云ふまゝに治療せぬからであります、それはどんな病院か知らぬが専門病院であつたら必ず治るに決つて居る、婦人病などは恐るゝに足りませんと云ふて捨てゝおいてはなりません、次に婦人病は大抵外部療法であります女は外部療法を嫌ふ爲めに中々病氣は癒りませ

ん、私は死んでも醫者に見せるのがいやです」と云ふて苦しんで居る人もある、是れは夫や父母の注意をすべき事でありませ、女の外部療法を嫌ふのにつけ込んで飲み薬丈で治るなんて賣る賣薬もあるが實に無責任の限りである、鐵砲創で膿のでるのに飲み薬ばかりでは誰も癒るまい、婦人病の服薬は治療の補助に過ぎない決して直接に治療薬とはなりません、皆さんの内で子宮病の服薬をなせし方は余の云ふよりも無効能の如何は御承知でありませしやう、余は今迄賣薬などの治療より醫師の治療を説きましたが決して賣薬と云ふても悪く云ふ譯ではありませ

せん、醫學上から見て相當に効力を備へ且つ正直に賣るものならば決して反對は致しません、余は實際に薬名分量を知り實驗せし事のある婦人病の賣薬がある是れは内外二薬であるが實驗上是丈は信じ得らるゝから次に紹介しやうと思ひます、これより第一に婦人科病院を紹介するが注意する事は病院が立派でも醫師の下手な場合もある婦人病は内科と違ひ熟巧せる技術が必要であるから其の邊に注意せねばなりません、余は或る關係上ではなく最も信用ある病院をいろは順に記せば。

京橋木挽町 池田病院 産科 科長 下井先生、湯本先生擔任

日本橋濱町 産科 濱町病院 院長 小林先生、大瀬先生擔任

神田駿河臺 産科 濱田病院 院長 濱田先生、辻先生擔任

本郷湯島 順天堂 産科 吾妻先生擔任

此の外に澤山あるが迷ふ事なく此の内の便利な處を選んで診察して御覽なさい尙無料診察を望まるゝ人は御通知あらば紹介致します。

● 婦人病特效薬に就て

世間には澤山の婦人病血の道の薬はあるが何も信用はできません然し一つ丈余は實地に試験した内外二種の薬あ

る事は既に申上げた通りであります。今是を説明せんに内
用飲む薬も又外用直接の治療薬も醫學上理想的であつて
此の上なき良薬である事は余は實地に試験したから申上
げるのであります。

▲其の特色は第一に（直接）外部療法に重きを置いたる
事。是は何れの婦人科病院でもなす如く醫學上に叶つ
て居るのであります。子宮病は大抵膿菌性を有する爲
めに白帶下があるから外部療法即ち灌注消毒及座薬を
用ゆるのは當然であります。故に飲み薬計より數等治療
に効力があります。

▲其の第二の特色は普通の子宮玉の如く嗅のせぬ事直に
痛の止まる事。世間にある子宮玉は嗅がする、痛の効
力もないが是は少の嗅もせず又痛を止める丈に白帶下
も止める効力があります。

▲第三は内服薬である。是れは婦人病から起る種々なる症
状に効がある。全體子宮病の飲み薬は症病によつて用
ゆべきものであつて直に主治薬とすべきものでない事
は前に述べた通りであるが、是の薬は外用と共に服用せ
ば總ての症状を治療する効があります。

▲第四は治療に手輕である。第五は廉價である、以上を

合せて余は確に賣藥として紹介するものは此れ丈である
 事を實驗上信じたのであります、然し其藥の發賣所は茲
 に申上げる事は出来ません、なせかと云ふに、他の營業
 は廣告的になり且つ又萬一發賣元にて粗製品にても送る
 やうな場合は余の言は不信用になるからであります、但
 し専門醫に不便な場合、他に事情のある御入用の人には
 余に於て製造元から取りよせて何時でも御送り致します
 から望みの方は遠慮なく申込んで下さい。

●子宮病専門藥

内用	子宮の湯	内用外用合せて	金一圓五十錢	送料八錢
外用	腔座藥	廿日分	金二圓八十錢	送料八錢
		卅日分	金四圓	送料十二錢

●月經専門藥 (婦人妙藥)

月經を下す藥

藥價	金一圓十錢
特製	金二圓二十錢
送料	各八錢

●神經衰弱の専門藥 (コールニー)

生殖器障害の藥

藥價	十日分	金一圓十錢
同	廿日分	金二圓五錢
送料	各	八錢

●代金は郵便小爲替にて御送金次第御送品申上ます。
 ●宛所は 神奈川縣相州茅ヶ崎下町高橋忠定

右の薬は皆他の人の製劑であるが余の實地に試験した薬であるから効能も信用して諸君に頒つ事ができ又御安心の上使用して差支ありません。

余は薬屋ではないが皆さんの御便利の爲め薬を取次で上げます、又身體の具合を詳しく御知らせになれば手當法をも御通知致します。

此の書の件に付御質問の場合は送信料封入あらば御返事致しますから御遠慮なく何事でも御照會あるべし。

大正四年二月十七日印刷
大正四年二月二十日發行

不許

複製

神奈川縣高座郡茅ヶ崎下町四一六一

編輯兼 高橋 忠 定
發行人

東京市京橋區本八丁堀一丁目十五番地

印刷人 秋場 熊太郎

278
160

終

